

D委員会 基礎学力アップ（定時制）

D委員会では、基礎学力とは単なる知識ではなく、「主体的な学びを通して、自分の持っている知識を活かして問題を解決する能力」と定義して、下記5点の取り組みを行った。

（1）事業報告

①職員研修会

- ・定通合同職員研修会

「探究型学習の授業づくりの基礎～生徒の基礎学力向上を目指して～」

（山形県教育センター 山科勝指導主事）2016年8月2日

- ・定時制職員研修会「探究型学習を活用した指導実践の研究」

（山形大学大学院教育実践研究科 三浦登志一教授）2016年12月27日

- ・定通合同職員研修会①「アクティブラーニングを考える」

（山形県立庄内総合高等学校 五十嵐一明教務主任）2017年9月6日

②校外研修会等への参加

- ・学校法人三幸学園主催 高校教員対象アクティブラーニングセミナー

「～東北の教育を考える～生徒が能動的に学習する真の『教育』を目指して」

- ・(株)ベネッセ主催「これからの学習指導を考える会」

- ・(株)学研アソシエ主催 「高校教育フォーラム2016」

- ・山形県高校教育課主催

山形県高等学校教育課程研究協議会 総合的な学習の時間部会

山形県高等学校基礎学力向上検討委員会

高校生の基礎学力定着に向けた学習改善のための調査研究事業検討委員会

探究型学習推進研究会

- ・山形県教育センター主催 平成29年度 カリキュラムサポート事業特別講座

「『探究型学習』を実現するためのアクティブラーニングについて」

- ・東北芸術工科大学創造性開発研究センター主催

「学びの改革334プロジェクト 探究型学習研究大会」

③試験前学習会

定期試験前、会議室を学習質問会場として確保した。（年間5回、約25日）

④「総合的な学習の時間」発表会

昨年度から、本校における「総合的な学習の時間」を探究型学習の実践と考え、その成果を発表する場として、生徒自らが取り組む発表会を各部のLHRの時間に実施している。

- ・平成28年11月17日（木）④⑧⑨時間目
- ・平成29年12月21日（木）④⑧⑨時間目

⑤基礎学力養成教材「たいよう」

Ⅲ部では以前から基礎学力の養成を図るための教材「たいよう」を作成している。
（年間16回実施）

（2）成果と課題

①職員研修会

探究型学習の理論や方法を学び、校内研究授業に活かすことができた。研修会後のアンケートによると、「さまざまな気付きがあった」「自分の授業に取り入れていきたい」という意見が多数あり、職員の意識や意欲の向上につながった。しかし、「特別な支援を必要とする多様な生徒が在籍している本校に合った探究型学習の形とは？」「本校生徒につけさせたい基礎学力とは？」などを改めて問いかけるような意見もあり、今後の継続課題である。

事業を総括するにあたって実施した職員アンケートの結果を以下に示す。（抜粋）

【本校に合った探究型学習の形】

- ・グループ学習や発表にこだわらない
- ・グループ学習が苦手な生徒には、別の役割を与える

【本校生徒につけさせたい基礎学力】

- ・授業にしっかり参加する力
- ・各教科の基本的な部分
- ・国語力
- ・指示を聞く力、指示通りに行動する力
- ・他人と会話する力
- ・問題解決のための知識
- ・教科書、本、新聞などを読んで理解する力

②校外研修会等への参加

D委員会のメンバーを中心にさまざまな研修会に参加し、探究型学習について研鑽を積んで、研究実践の参考とした。今後も機会をとらえて、多くの職員に参加してもらいたい。しかし、研修内容を本校職員全体に伝達する機会が十分にはとれなかった。今後、伝達方法を考えたい。

③試験前学習会

毎回、「要項」や『教務旬報』によって、職員・生徒に日程や時間を告知したが、利用

者は定期試験1回につき数名であった。実技科目では、教科担任の計らいにより特別教室で学習する生徒もおり、場所と時間を有効に活用して学習しようとする生徒が出てきたことはよかったと言える。



④「総合的な学習の時間」発表会

人前に出ることや発表することが苦手と思われていた本校生徒の意外な一面を発見することができた。昨年度は初めての発表会だったが、今年度は「生徒の発表に実演や作品提示などの動きを取り入れる」「生徒に発表資料を配る」の2点を改善点として実施した。講座担当者の丁寧な指導や準備のおかげで、人前に出る機会があまりない生徒が代表として発表したり、普段は声を出せない生徒がマイクを使ってはっきりと話したりできて、有意義であった。また、聴いている生徒の態度も真剣で立派だった。2年目となる今年度は、発表生徒に聴いている人を意識させることで、プレゼンテーション能力のさらなる向上を目指した。パワーポイントを使ったり、実際に活動の様子を見せたり、製作した作品のポイントを紹介したりと、生き生きとした動きのある発表会となった。



職員アンケートには「今後も続けたほうがよい」という意見が多いが、「発表にはそぐわない内容の講座がある」という意見もあるので、来年度以降、発表方法の多様化なども検討し、改善を図りたい。

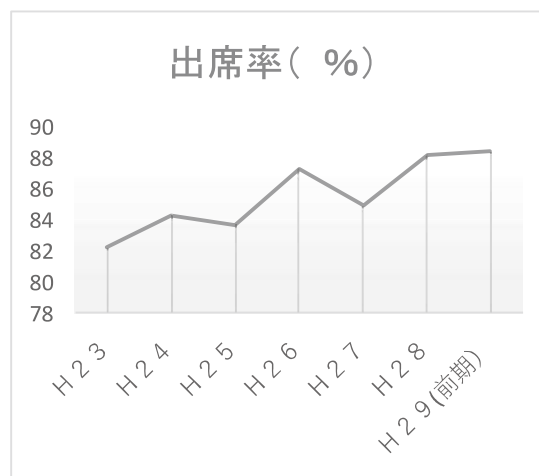
⑤基礎学力養成教材「たいよう」

各教科および一般常識など領域・バランスを考慮して出題することによって、生徒一人ひとりが社会に出た時に有益となる知識を身につけることができた。また、定期的実施することで、生徒の取り組む姿勢が年々向上している。職員アンケートには「主体的に学ぶためには、このような基礎知識が必須だ。」「Ⅲ部の生徒だけでなく、ⅠⅡ部の生徒にも必要だ。」との意見が複数あったので、今後の対応を検討したい。

(3) 事業開始前と開始後の生徒の変化

① 年間出席率（長欠含）

	年度	出席率 (%)
開始前	H 2 3	82.2
	H 2 4	84.3
	H 2 5	83.7
	H 2 6	87.3
開始後	H 2 7	84.9
	H 2 8	88.2
	H 2 9 (前期)	88.4

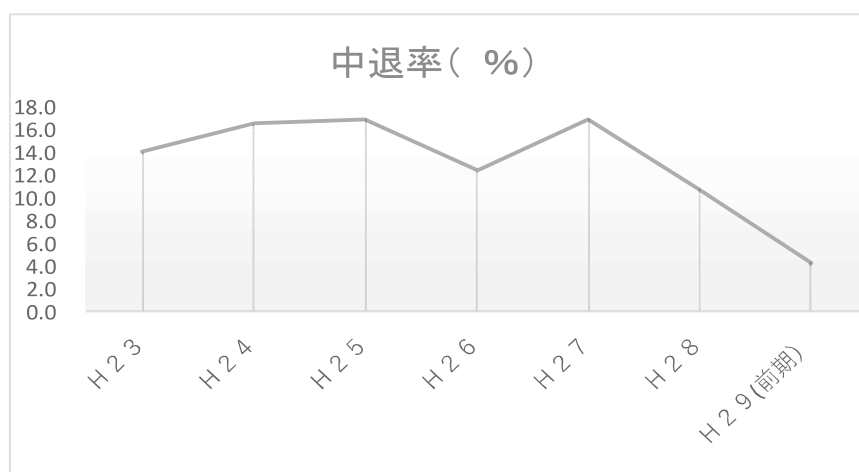


出席率は80%台前半であったが、80%台後半に上昇している。

② 中退率

	年度	生徒数(5/1)	退学者数	原留者数	中退率 (%)
開始前	H 2 3	356	50	18	14.0
	H 2 4	326	54	9	16.6
	H 2 5	300	51	23	17.0
	H 2 6	267	33	13	12.4
開始後	H 2 7	259	44	13	17.0
	H 2 8	249	27	9	10.8
	H 2 9 (前期)	234	10		4.3

※中退：中途退学者 / 原留：原級留置



生徒数の減少もあるが、50人以上だった退学者数が30人未満になろうとしている。

③ 授業評価（平成28年度から生徒自身の学習に対する評価を加えた。）

	上段：H28 下段：H29	数値は %	そう思う	だいたい そう思う	あまり 思わない	まったく 思わない
1	私は、遅刻や欠課がないように心がけている。	65.3	27.4	5.7	1.6	
		▽63.2	26.8	8.3	1.7	
2	私は、授業を受けるときのマナーを守っている。	65.1	29.7	4.3	0.9	
		▽62.1	32.1	5.0	0.8	
3	私は、先生の話をよく聞き、ノートをとっている。	61.1	32.2	5.7	1.1	
		61.1	31.2	6.4	1.3	
4	私は、授業の内容を理解しようと努力している。	57.6	35.6	6.0	0.9	
		56.5	37.1	5.6	0.8	
5	提出物は期限を守ってきちんと出している。	62.2	25.5	9.2	3.1	
		▽58.6	29.9	8.8	2.7	
6	定期試験には、きちんと準備をして臨んでいる。	35.8	41.6	18.0	4.6	
		△42.7	41.0	13.4	2.8	
7	この授業を受けて、考える力が身についたと感じる。	45.1	43.6	9.5	1.9	
		△46.5	42.2	9.6	1.7	

基本的な生活習慣が身についていないことから、授業に向かう姿勢が不十分な生徒が昨年度より多かったが、授業での理解度は向上している。

(4) まとめ

さまざまな取り組みの成果として、出席率の向上と中退率の減少が見られる。また、第1回授業評価の結果から、試験に対する姿勢が改善され、授業での理解度が深まっていることが窺える。

事業開始時は、本校のような多様な学習歴を持つ生徒集団に対して、「探究型学習を活用した授業」や「総合的な学習の時間」の発表会などの取り組みは効果があるのか、職員の中に疑問視する雰囲気があった。しかし、一つひとつの実践に取り組んでいく中で、我々教員の予想を上回る能力を発揮する生徒が次々に現れた。これまでコミュニケーションをとるのが難しいと思われていた生徒が立派にプレゼンテーションを行い、授業では活躍の場がなかった生徒が製作・作業に熱中するなど、生徒の変化を見ることができた。また、職員対象のアンケートには、「探究型学習の必要性を感じた」「自分の授業に活かしたい」と、意欲的な意見が多く見られた。生徒の変化もさることながら、教職員の意識に変化があったと考えている。次年度以降は、本校生徒につけさせたい基礎学力を見据えて、本校生徒に合った探究型学習の形を探っていかなければならない。

D委員会 基礎学力アップ（通信制）

（1）霞城塾（基礎学力アップ学習会）

本校では生徒の基礎学力向上対策の一環として、「基礎学力アップ学習会」を行ってきた。昨年度より、CSプロジェクトの実施に合わせて生徒にもより親しみやすい「霞城塾」に名称を変更している。以下の内容がその要項である。

【霞城塾要項、1～10】

1. 目的

- ①中学校までの基礎的、基本的な学習内容が身につけていない生徒に対して、基礎学力の定着を図ることでレポート学習がスムーズに進むようにし、通信制での学習の基礎となる力を育成する。
- ②集団の一員としての行動を通してさまざまなスキルを身につけさせることにより、社会性を育てる。
- ③年間学習計画の進捗状況の把握および必要に応じて修正に努めさせる。

2. 対象生徒

- ①新入生を中心とするが、在校生の参加も認める。
- ②「明日への～」科目を履修登録している生徒。
(基礎コース履修者中心・3科目すべて受講でなくとも可)
- ③継続的な出席が可能である生徒。

3. 募集定員

- ・特に設けない。
- ・新入生は、レポート学習会での「基礎力コース」の生徒を引き続き参加させる。
- ・在校生については、学習意欲が明確であれば参加させる。

4. 実施時期

- ①5月から10月にかけての火曜日の午後（13時から16時）。
- ②全20回の予定だが、生徒にはまず10回分（7月まで）の計画を連絡し、それ以降については状況に応じて判断し連絡する。

5. 実施科目

- 「明日への国語」・「明日への数学」・「明日への英語」（※1）
スキルトレーニング（※2）

6. 指導体制

- ①指導は原則として3教科の担当者が行う。他教科職員については、霞城塾の担当を2名置き、出席確認・連絡等を行なう。2名のうち1名を新入生担任から、1名を学習促進課から選出する。
- ②必要に応じて基礎力アップ担当者会を行い、お互いの連携を図るとともに、スキルトレーニングの内容の検討等を行なう。

7. 指導内容

「明日への～」科目のレポートを中心に、小学校からの学習内容の中でレポート学習の土台となる基本的かつ重要な事項を補完する。

8. 教材

「明日への～」科目のレポート，テキスト，補助教材 等

9. 指導方法

- ①実施時間は1コマ40分とし、講義と演習を組み合わせる。
時間割については、1・2・4コマに3科目のローテーションで割り振る。

(教室の開錠)	12:30
SHR	12:55～
1時間目	13:00～13:40
2時間目	13:50～14:30
3時間目	14:40～15:10 《スキルトレーニング》
4時間目	15:20～16:00
(施錠)	16:30

【16:30までは各自の予習や復習の時間として利用できる】

- ②「明日への～」科目のレポート提出基準日に合わせた指導を行う。
- ③テストについてはテスト受験予定日を目指し、テスト勉強の仕方をアドバイスする。

10. その他

開講式・閉講式を実施し、継続的に学習できた生徒には校長名で修了証を授与する。

(※1) 「明日への国語」・「明日への数学」・「明日への英語」

本校で開講している学校設定科目で、各2単位。学習内容については、主に中学校の復習と必履修科目の基礎的な部分を中心。同じ教科の他の科目の単位を修得していないことが履修可能な条件。

入選合格者に3教科の「基礎学力判定問題」と解答を郵送し、入学前の履修指導時まで問題解いて自己採点してくるよう指示。履修指導者はその結果を考慮し、必要であれば必履修科目を履修する前に「明日への～」科目を履修するように勧める。「明日への～」科目の履修は、1教科だけでも可とする。

(※2) スキルトレーニング

毎週担当者が変わりそれぞれの担当者が工夫し、全員での作業やゲーム等を通してコミュニケーションをはじめとする様々なスキルの向上を目的としている。

(2) 今年度の状況と来年度以降について

年度当初の申し込みは、新入生12名・在校生5名の計17名であった。その中で、ほとんど欠席をしないで継続的に学習して修了証を授与された生徒は2名、ほとんど学校に出校できなかったなどの理由で一度も出席できなかった生徒は3名であった。

出席状況は良好とは言えないまでも、出席者のアンケートからは以下のような意見が寄せられた。

- ・この講習会のおかげで、新しい友達ができたのでとてもよかったですと思います。
- ・勉強も進んだし、話せる人もできたし、楽しく参加することができたので、とてもいい学習会でした。人数が少なくても、先生が丁寧に接し、教えてくれたので、よかったです。
- ・こつこつ勉強ができて、すごくよかったです。家ではなかなか勉強が進まないし、わからない所も出てくるのでいい場だったと思う。

年度当初には霞城塾に出席しようとする生徒が多いこと、出席した生徒にはとても有益だったことを考慮し、学習環境をさらに整えながら来年度以降についてもぜひ継続して実施してゆきたい。

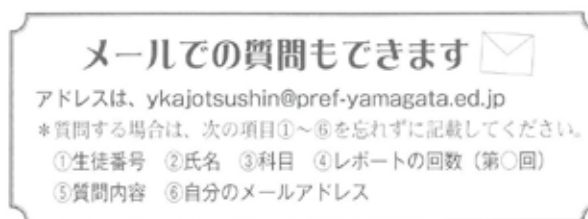
D委員会 基礎学力・マルチメディア教育の取り組み（通信制）

（1）放送視聴による学習

通信制では、「NHK高校講座」のテレビ・ラジオ放送などの視聴を通じ、学習に役立っている。パソコンやスマートフォンなどの端末でも視聴できるため、生徒の活用機会も多い。規定の番組本数を視聴し、放送視聴報告書を提出することで、スクーリング時数の代替認定も行っている。

（2）Eメールによる教科への質問と回答

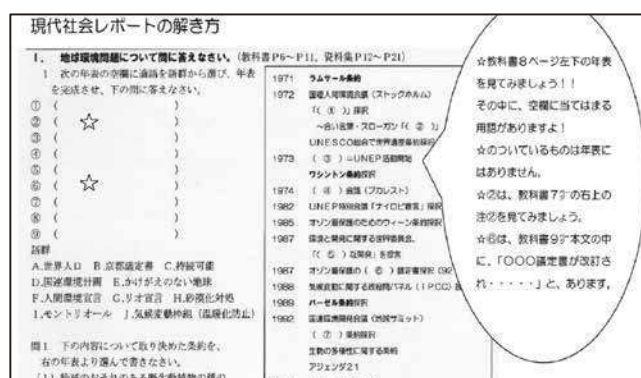
生徒が質問する方法は、教員に直接か電話、郵送でも可能であるが、多様な生徒が在籍する本校では窓口も多い方がよいと考え、通信制代表メールでの質問も受け付け、回答している。



（『霞城通信』の掲載記事より）

（3）HPによる学習支援

平成26年度からは、HP上にレポートの解説をPDF化し、学習を進める上での、参考やヒントの掲載を試みた。



（地歴公民科の「現代社会」解説プリント一部）

（4）まとめ

本校通信制のレポート学習は、基本的には教科書・学習書・副読本で進めることが可能な内容になっている。基礎学力アップが必要な生徒をはじめ、多様な生徒に対応できるよう、今後とも改善を図ってきたい。

E委員会 進学者対策（定時制）

（1）今年度事業報告

①教科個別指導（5月～2月）【卒業予定者対象】

卒業予定者の進学希望者に対して、普段の授業では対応できない進学指導については個別指導として教科担当者毎に生徒を割り当てて、授業時間以外の時間帯で指導した。また、長期休み中では、時間割を組んで教科指導を行った。

期 日	教 科	指 導 内 容
5月2日（火）～7月24日（月）	国・社・数・理・英	平日個別指導（含講義形式）
夏 季 休 業	国・社・数・理・英	長期休業中個別指導（含講義形式）
8月22日（火）～12月22日（金）	国・社・数・理・英	平日個別指導（含講義形式）
冬 季 休 業	国・社・数・理・英	長期休業中個別指導（含講義形式）
1月9日（火）～受験日まで	国・社・数・理・英	平日個別指導（含講義形式）

②面接・小論文指導（6月～3月）【卒業予定者対象】

教科指導とは別に AO 入試や推薦入試等に対応し、希望生徒毎に教員を割り当てて面接練習及び小論文練習を行った。また、キャリアカウンセラーや進路アドバイザーにも最終的な段階で面接指導をして頂き、試験に向かうための準備を整えて向かうことができた。

〈 指導の流れ 〉

6/14（水）「面接・小論文・作文指導 希望願」用紙（裏面）配布 （各担任→卒業予定者）

6/21（水）「面接・小論文・作文指導 希望願」生徒提出締切 （卒業予定者→各担任）

6/23（金）進路課へ上記希望願提出締切 （各担任→担当者）



※締切厳守でお願いします。

※この期間、進路課、卒担での調整と改訂

※尚、職員担当割については、教科の個別指導を抱えている先生には配慮して割り振りを行いますので、ご協力をお願いします。

7/7（金）指導者割り振り提案 （職員打ち合わせ）

7/10（月）担任を通じて、担当者を生徒に通知 （担任→卒業予定者）

→生徒が担当者に「挨拶と具体的な指導開始時期の打ち合わせ」に伺うように指導をお願いします。

7/21（木）まで 指導日程打ち合わせ等 （卒業予定者→指導担当者）

（夏季休業直前）

⇒ 指導開始

③外部模試（6月～2月）【卒業予定者・高2生・高1生対象】

実力養成講座という形で長期休業中の講習と外部模試を連動させ、進学希望者はその両方を受講することにより、進学の意識向上と希望達成を目指すことができた。



〈 高1コース実力養成講座 〉

期 日	教 科	指 導 内 容
7月25日（火）～28日（金）	国・数・英	夏 期 講 習（午後）
10月16日（月）～18日（水）	国・数・英	11月進研模試教科が イダ ンス
10月28日（土）	国・数・英	進 研 模 試
12月25日（月）～28日（木）	国・数・英	冬 期 講 習（午後）
1月20日（土）	国・数・英	進 研 模 試
3月上旬～	国・数・英	春 期 課 題 学 習 ※各教科担当の指示による

〈 高2コース実力養成講座 〉

	期 間	教 科	指 導 内 容
前 期	6月21日（水）～6月23日（金）	国・数・英	7月進研模試教科が イダ ンス
	7月 1日（土）	国・数・英	進 研 模 試
	7月25日（火）～7月28日（金）	国・数・英	夏 期 講 習（午後）
後 期	10月16日（月）・10月17日（火）	社・理	11月進研模試教科が イダ ンス
	10月27日（金）・10月28日（土）	国・社・数・ 理・英	進 研 模 試
	12月25日（月） ～12月28日（木）	国・数・英	冬 期 講 習（午後）
	1月26日（金）・27日（土）	国・社・数・ 理・英	進 研 模 試
	3月上旬～	国・社・数・ 理・英	春 期 課 題 学 習 ※各教科担当の指示による

④専門学校訪問（11月14日）【高2生・高1生 進学希望者対象】

以前はオープンキャンパス訪問として、7月に複数学科を持つ総合大学のオープンキャンパスへ4年制大学希望者を中心に募って参加していたが、4年制大学希望者がここ数年減ってきていることと希望学部の多様化により、開催が困難になった。そこで今年度は、新たに山形市内の専門学校等を複数見学し、進路を考える上で比較検討できるような機会を設けることにした。低学年次が参加しやすいように平日にバスで訪問する形を取り、専門学校V.カレッジ、山形県立産業技術短期大学校、大原学園専門学校の3校にご協力をいただき、1年次・2年次を中心に4年次を加えた13名の生徒が参加した。先方のご配慮で分かりやすい説明をいただき、充実した施設見学をすることができた。参加者のアンケートによれば「それぞれの学校の良さを比較することができ、とても有意義だった」という感想が多く好評であった。今後も継続していきたい。



⑤夏期・冬期講習（夏季休業及び冬季休業）【卒業予定者・高2生・高1生】

前述したように、実力養成講座の一環で夏期講習は5日間（7/25～7/29）、冬期講習は3日間（12/26～12/28）の日程で行った。また、各講習の初日に希望の高1生・高2生対象に「進学セミナー」を開き、進路意識の向上を図った。

〈 高1・2生対象 進学セミナー 〉

○対象生徒 ※3年で卒業→3修、4年で卒業→4修

高1生（3修生1年次、4修生の2年次）・高2生（3修生の2年次、4修生の3年次）
の大学・短大・看護医療系専門学校への進学を希望する生徒

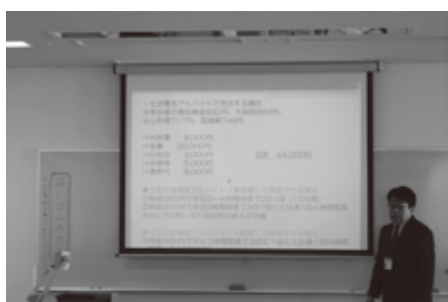
○日時等

日 時	7月26日(水) 11:00~12:00	12月25日(月) 11:00~12:00
場 所	視聴覚室(8F)	
対 象	高2生(3修生2年次・4修生3年次) 高1生(3修生1年次・4修生2年次)	
講 師	桑名 暢 氏	

⑥保護者対象事業(5月20日 PTA総会後)

進学セミナー(進学に係るマネープラン学習会)20名参加

昨年度までは金融機関のマネープランナーに依頼して、進学を希望する生徒の保護者向けに入学に関わる費用、一人暮らしをする際の仕送りなどの教育資金の具体的な説明を行っていた。今年度は上記に加え、奨学金制度や通信制の大学など、経済的な事情を考慮した話を多角的にさせていただくために、キャリアカウンセラーの桑名暢氏に「進学セミナー」を依頼した。資金面の話はもちろん、進学を希望する子どもを持つ親の立場として、進学をさせる上で気をつける事やこれから取り組まなければいけないこと、親子で話し合うコツ・心構えなど、より具体的な話を聞くことができた。自由参加ではあったが、進学希望生徒の保護者だけでなく就職希望生徒の保護者も参加しており、真剣に聞き入っていたのが印象的であった。その後、個別相談にも対応してくださり、個々の疑問に対して懇切丁寧なアドバイスをしていただき、有意義な保護者向けキャリアカウンセリングとなった。



(2) 事業の成果と課題

今年度の4年制大学希望者は、こだわりが強く志望大学は決まっているものの試験の対策の指導からは逃げてしまう、漠然と入りたい学部は決まっているものの個別指導に積極的に向かえず、具体的な大学を決められないなどが特徴的であった。また、就職を希望していたが、卒業年次になって突然大学に進学したいと保護者共々申し出る生徒、それとは逆に夏休みの三者面談でそれまで短大を希望していたが、それほど進学したいわけでないからと就職に希望したいという生徒など、担任がここまで面談・確認をしてきても出てくる急な進路変

更に戸惑うことも多かった。また、これとは別に自分の内面をよく見つめ直し、就職試験に挑戦する中で自分のやりたいことが見えてきて専門学校に切り替える生徒も出た。まさに、一概に指導できない、個々の多様な進路に対する思いをどう受け止めるかという課題を改めて実感した。そういう生徒には、担任を中心にキャリアカウンセラーや進路アドバイザー、進路課などと連携し様々なアプローチを行った。様々な人の指導を受け取り組んだ結果、進路実現できたことはとても素晴らしい成果であった。

進学を希望する生徒が年々減少傾向にあることは否めないが、卒業年次の中には、春に志望を「薬学部」に変更し難関と思われた進学を叶えた生徒、これも春に商業の教員になりたいと就職から志望を変更し、まじめに学習に取り組み進学を決めた生徒など、個別指導の学習に真剣に取り組み成果をあげた生徒もいる。

ただ卒業年次になってからでは間に合わないことも多い。課題として、低学年次のうちに「進学セミナー」「長期休業中講習」など学習習慣を定着させる指導や、「専門学校訪問体験」、「個別のオープンキャンパス訪問」を促すなど、自らの進学についてよく考え、素朴な疑問を相談できる機会を設けること、多様な入試制度を生徒に理解させることが重要と考える。

(3) 来年度に向けて

- ①入学前から本校の進学指導について、生徒・保護者ともに理解してもらう必要がある。
- ②入試制度の改変（大学入学共通テスト）に対する対応策を検討する。
- ③日常的なキャリア教育の位置づけとして、日々の授業において基礎学力の向上を目指し、その上で探究型学習の段階的な導入及び実践により、多様な入試制度に対応していく。
- ④進学においてもソーシャルスキルトレーニング講座の必要性を感じているため、今後の継続を模索していく。

